

第一部国際協力分科会（第24期・第1回）議事録

日時：2018（平成30）年1月15日（月）13：00～15：00

会場：日本学術会議 6-A（2）会議室

出席：青木玲子、栗田禎子、西條辰義、齋藤安彦、杉原薫、羽場久美子、藤原聖子、廣渡清吾、町村敬志、矢澤修次郎、山本眞鳥

議題

（1）役員の選出について

委員長に町村敬志会員、副委員長に西條辰義会員、幹事に栗田禎子会員、齋藤安彦連携会員を選出した。

（2）ISSC と ICSU の統合について

ISSC と ICS の統合にともなって創立される ISC（国際学術会議）の創立総会が2018年7月にパリで開催されることが紹介された。手続き的には、5月にISSCが解散を決定し、ICSUに合流する形となる。そのうえでICSUはISCへと改称され、新組織としてスタートする予定である。これにともなって、創立総会時に、最初の役員選挙（任期2年）が実施される。日本からの立候補者については、国際委員会の下に設置されたISC等分科会で検討される予定である。以上の点について、意見交換をおこなった。本分科会は統合されるまでのISSCの活動について、ISC等分科会とも連携しながら引き続き関わることを確認した。

（3）WSSF の準備状況について

2018年9月に開催予定のWSSF（世界社会科学フォーラム）の準備状況について紹介された。ISSC と ICSU の統合にともない、今回のWSSFは新設されるISCの最初の国際会議と位置付けられることになった。プレナリーセッション5、Invited セッション（国内の関係学会主催を含む）15、パラレルセッション（一部でペーパー募集）約70のほか、ポスターセッション等が予定されている。開会式と閉会式では、学術会議から山極会長、武内副会長などが出席・挨拶の予定である。

（4）24期の活動方針について

WSSFについては、九州大学を中心とする組織委員会に本分科会がISSCとの連携役として共同で準備を進めてきた。ISSCはISCへと統合されるものの、WSSFについては実質的に本分科会が支えてきたことを踏まえ、WSSF 福岡大会については開催終了後の残務処理が済むまでは本分科会が何らかの形で関わっていくことが望ましいことを確認した。

また、巨大化するISCのなかで社会科学分野が埋没しないためにも、引き続き開催されることが予想されるWSSFと学術会議の関わり方について、第一部国際協力分科会としてもさまざまな可能性を検討していくことについて確認をした。

とくにWSSF 福岡大会開催後の課題として、第一部全体の人文・社会科学分野の国際発信・国際協力のあり方についても、本分科会として検討していくことを確認した。

（5）その他

日本学術会議の国際交流のあり方（とくにイスラエルとの交流）に関連して、国際的にはイスラエルとの「学術交流の自粛」等の動きが見られることに関する情報提供と問題提起があった。

（6）次回以降の予定

3月下旬から4月上旬に次回、5月下旬から6月上旬を目途に次々回を開催する。